

阿部町長

債務償還等の推移見込みでは平成38年度以降の償還負担が大幅に縮小することから、平成35年度以降も健全な財政を維持しつつ、公共施設の老朽化対応に地方債を活用していく見通し。

まちづくりの実現に必要な投資財源の確保は、補助事業の活用や地方債の交付税措置の活用に限らざるを得ないのが実情であるが、町税を柱とする自主財源の維持・拡大を目指して、農業を中心とした産業基盤の拡充と人口減少対策を充実させることが重要である。事務事業の見直しによる取捨選択、基金残高の確保も必要である。

清水町体育館の整備見通し

高橋政悦 議員
市街地が無秩序に拡散していくこと（スプロール）

ル化）は、まちを維持するコストの増大を招く。

今後の望ましいまちづくりの方向として「コンパクトシティ」という考え方は持っているのか。その考えのもと、清水町体育館の整備に対する具体的な構想はあるのか。耐震化の検討過程が見えない状況で町民が安心して運動できる環境を提供していけるのか。

伊藤教育長
清水町まちづくり計画の中で、コンパクトなまちづくりを進めていく必要があるとしている。体育館の建替えについて具体的な構想の検討は行っていないが、早い時期に建設場所や規模等も含めて関係団体等と協議し、平成37年度以降の建設を目指す。

それまでは機能維持の修繕等を行いつつ、町民の皆さんが安心して利用できるよう指定管理者とも連絡を密にして、施設管理に努める。

出先機関における危機管理



中島里司議員

災害が発生した場合、災害対策本部の体制は早期に整うかと思うが、出先機関や委託施設の体制はどうなっているか。災害時の役割について伺う。

阿部町長
それぞれの公共施設において、利用者の安全確保を最優先に、予想される危険と防止策、災害等が発生した場合の具体的な対応方法、対応手順、連絡方法などを定め、平時から訓練を行っている。公共施設の管理形態は、図書館等の直営方式と町体育館やアイスアリーナの指定管理者によるものがあるが、館長の統括のもと非常時に備え、施設従事者が役割を分担し、

今後も日常業務あるいは各種講習、訓練等において、緊急事態やリスクに対応する技術とセンスを身につけていく。

生産性の高い農地の整備



安田 謙議員

安定した生産の確保と農作業効率が上がれば経営は良くなる。

戸別の努力以外の圃場の整備事業等は今までいろいろ行ってきたが、本町全体を見たとき、他町と比べると整然としていない（四角ではない）箇所が多く見られる。今後の整備計画について伺う。

阿部町長

農地整備計画について畑総整備は現在、松沢、美々、下佐嶋・人舞地区の3地区が実施中で、今

後は、現在調査中で平成31年度着手予定の清水・羽帯地区、その後御影・旭山地区を事業申請する予定となっている。このほかに、町が事業主体の事業を単年度ごとに実施している。

農地の地形を変えるには、支障となる施設等を移動又は撤去する必要がある。現在計画している道営事業で整備することは可能であるが、排水路等の移動には下流域のすり付け工事が必要であり、

【6月19日傍聴者からの声】

一般質問をもう少し長くしてほしい。町長をはじめ課長職の顔や表情を見ながらの話で、書面を見るよりわかりやすかった。

閉会中の委員会活動

総務産業常任委員会

- ・台風災害の復旧状況と共栄橋の被害状況について
- ・農作物の生育状況について
- ・その他所管に関する事項について

厚生文教常任委員会

- ・福祉施設の人材育成・確保の取り組みについて
- ・その他所管に関する事項について

広報広聴常任委員会

- ・議会広報紙の編集及び発行について
- ・その他議会の広報及び広聴に関する事項について

議会運営委員会

- ・議会の運営とその諸規定について
- ・議長の諮問に関する事項について

委員会レポート

委員会活動として閉会中に行った所管事務調査の内容を、各委員会は第4回定例会において報告しました。
※内容は要約されています。報告書の全文はホームページでご覧になれます。

総務産業常任委員会 調査報告

清水公園活性化事業について

清水公園活性化方針（案）では、清水公園を「町民の憩いの場」とするとともに、町外の方が目的地として訪れる「観光施設」としても位置づけられている。

優先すべきことはきれいで爽やかな景観の維持と考え、大規模な整備は体育館と併せて検討を行い、鑑賞型とする。

清水高等学校の振興策について

清水高等学校振興会は、町から補助金を受けて、生徒全員を対象に卒業後の進路実現を支援する活動を行っている。

平成30年度は総合学科になってから20期生が卒業する節目の年であり、特色である生産技術系列の成果を町の活性化に活用するため、の事業を計画しており、

再整備、体育館との連絡通路・遊具・樹木の検討、バーベキューハウス・キャンプサイトなどの増設、公園の指定管理化が挙げられている。



体育館との連絡通路（トンネル）は照明が損傷しており、壁などの汚れが目立つ

委員からは、「何か1つ目玉がほしい」「出入口や駐車場の整備も再検討すべき」「田舎っぽく素朴なところが魅力なので素人の観点で案を検討してほしい。散策する目的を提供するのも1つのアイデア」

清水高等学校の平成30年度の入学人数は97名であり、学校の定員としては3学級であるが、4学級に編成して運営している。教職員は1名減となっているが、昨年並みの総合学

科の体制を維持している。今年度の入試で清水高等学校は定員割れとなったが、学校教育課や清水高等学校の説明によると、特に町外からの入学者が少ない状況であることが分かった。要因としては、入学者の確保に力を入れていた私立高校に定員よりも多く生徒が入学しており、その影響が大きかったものと推測している。



清水高等学校を訪問し、学校の概要や取り組み状況について説明を受けた

今後は、帯広市や新得町などの近隣市町村からのニーズを把握しつつ、学校訪問をしつつ行くとともに、PR方法を工夫し、魅力ある高校として認められ入学してもらえようとする必要がある。本町の活性化にあって、清水高等学校の4間口維持は町を挙げて取り組むべき重要な課題である。特色ある総合学科の質的向上を目指し、清水高等学校、高校振興会、町（教育委員会）の3者が連携して、清水高等学校の魅力を高める取り組みに向けて更なる努力をしてほしい。